

地域生活交通に係る調査特別委員会 摘 録

1. 開催日 令和6年6月26日(水) 第2委員会室
2. 出席委員 宇江田豊彦委員長 前田智永副委員長 谷口隆明 徳永泰臣 五島誠 國利知史
林高正議長
3. 欠席委員 なし
4. 事務局職員 山根啓荘議会事務局長 横山和昭議会事務局議事調査係長 橋本和憲議会事務局主任主事
5. 説明員 なし
6. 委員外議員 坂本義明副議長
7. 傍聴者 1名
8. 会議に付した事件
 - 1 調査の方向性について
 - 2 調査項目別のグループ編成について
 - 3 今後の日程について

午後0時59分 開 議

○宇江田豊彦委員長 それでは、第2回地域生活交通に係る調査特別委員会を開催いたします。ただいまの出席議員は全員です。傍聴、写真撮影、録画等を許可しています。

1 調査の方向性について

○宇江田豊彦委員長 まず、1点目、本特別委員会の調査の方向性について御議論ください。皆さんにお配りしている資料に、地域生活交通に係る調査特別委員会の事前協議結果というのがありますのでごらんください。これは、6月10日の本会議終了後に、宇江田、前田副委員長、正副議長で打ち合わせを行いました。まず、設置期間は、6月10日に第1回の本特別委員会を開催した日から最終報告をするまでなので、遅くとも来年の3月定例会までに一定程度の報告を行って本委員会を閉じなければならぬことを御確認ください。また、調査結果は時期議会に、と書いています。目的等については、ここに書いているように、2025年度に庄原市地域公共交通計画の見直しが予定されており、議会としても生活交通に関する検証や調査が必要なため、今後、本委員会で活動を行っていきたい。これは、本会議で皆さんに確認してもらっているので、御異議はないと思います。構成メンバーは、念のため書いています。ここからが本日協議してもらう内容です。まず、調査の方向性について、皆さんと議論していきたいと思います。2024年12月定例会または2025年3月定例会で一定の調査報告をしなければならず、焦点化の中で、効率的に調査を実施するように考えています。そうしないと、間口を広げていくと、とてもではないですが具体的な調査は行えないと考えているので、焦点化をする形で進めたい。そして、具体的な調査は、地域交通の利用者、今は利用していないが利用したいと思っている人、そして、地域交通の提供者からの聞き取りを中心に行っていきます。調査の基本的な方向性について、皆さんから御意見がありますか。委員の皆さんどうですか。五島委員。

- 五島誠委員　　私も委員長が言われたように考えています。限られた時間の中で、限られたリソースで行っていくということで、包括することはよろしいのではないかと思います。
- 宇江田豊彦委員　　他にありませんか。谷口委員。
- 谷口隆明委員　　その前に確認なのですが、目的のところ、調査結果は次期議会へ引き継ぎを行い、継続した取り組みをするとあります。任期満了になると本特別委員会は一旦終了しますが、また次の議会でも本特別委員会を継続して起こすと理解すればいいのですか。
- 宇江田豊彦委員長　　実は、委員長の理解では、次の議会で継続されるかどうかはわからないのです。ただ、次の議会でこれを活用してもらいたいという希望的観測も含めて書かせてもらっています。そのように使ってもらわないと、本特別委員会の調査が効力のないものになってしまいます。このメンバーの中で次期議員として出られる方は、これを活用するというので、ぜひとも資料として糧にってもらいたいという思いで提案させてもらっています。他にありませんか。徳永委員。
- 徳永泰臣委員　　調査の方向性ですが、焦点化については、これからここで議論していくのか、それとも、ある程度、委員長、副委員長が思いをお持ちなのかお聞かせください。
- 宇江田豊彦委員長　　そのことについては、多少素案は考えています。ただ、皆さんから御意見をもらって、どの部分に光を当てるのかについては、今から議論してもらって決定したいと考えています。他にありませんか。それでは、調査については、このような方向性で進めることに決めます。次に、現時点で把握している課題について、4人で少し議論をしてみました。それを羅列して書いています。まず、市民として、というところをごらんください。みずから運転できない市民の通学、通院、買い物のための交通手段確保を目指し、取り組みを進めてきたが、市民に充足感が持てる状況とは言いがたいのではないかと、4人で議論いたしました。使い方、乗り方がわからない、よく知らないという声がある。乗りにくい、呼びにくい、連絡して来てもらうのが恥ずかしいという感情もある。それから、免許返納後の交通手段をどうすればいいかわからないという声が日常的にあるのではないかと。大まかに言って、こういったことが市民の中にあるのではないかとということで、ここに列挙しました。それから、事業者として、運行事業者がどのようなことを感じておられるのかということで、これも何人かの方にお伺いをしたというだけの若干の箇条書きです。現行の地域交通をしっかりと利用してほしい、空気を運んでいるような感じがするというので、そこから脱却したいという思いがあるとお伺いしています。それから、人材確保が非常に厳しい。勤務時間の短縮をしていかなければならぬ。そして、経営が日常的に困難であるというのが事業者から伝えられた思いだと思います。今把握ができていない課題とすれば、こういうことが主な課題なのではないかと考えています。次のページを見てください。調査すべき具体的な地域交通について書いています。主に3つのテーマに沿って担当グループごとに調査研究し、その都度、委員会で情報共有を行って意見交換をしていく。必要があれば、担当グループを超えて協力し合っていく方法で調査を進めたらどうかと考えています。これも今からの議論です。具体的に調査を行っていくように考えたのは、通学に特化したJR芸備線についての調査を1項目めに挙げました。芸備線再構築協議会、芸備線沿線議員連盟等でも議論をされていますが、実際に通学に利用されている方、利用したいができない方等の意見を調査研究する。そして、JRを主に活用されているのは市内各学校の高校生です。その高校生の意識調査で、とりわけ、西城紫水高校の生徒が多いのではないかと思いますので、西城紫水高校の生徒との意見交換も行えばいいのではないかと考えています。それから、2項目めに、タクシー利活用、需要調査で、5月25日をもつ

て、市街地における夜間のタクシー運行がストップしました。多くの飲食業者からも御意見をもらっているところです。夜間運行が廃止されたことへの影響、対策について調査をしていこうということで、とりわけ、本市が所有する桜花の郷ラ・フォーレ庄原といった機関が非常に困っているのではないかと想像ができます。それから、要介護の高齢者、障害者等の福祉車両等についても、庄原市では業者が大変少ない状況なので、その実態。それから、それに係る運行管理について、という形で、市内タクシー運行业者、ここには、石田タクシー、中央タクシー、りぼんタクシーと具体的に書いています。もちろん、これ以外に調査を進めてもいいと思いますが、とりわけ、今まで運行していた夜間がなくなって深刻な状況を生み出しているということで、ここに、スポット的に名前を挙げました。3項目めに、地域に本当に求められるデマンド交通について調査をしたらどうかということで、過疎地域の移動手段の模索、皆さんが現状をどのように思っておられるのか、どのようなものを望まれているのかを調査していきたい。それから、交通事業者、地域の協議体への聞き取り。ここに具体的に書いていますが、高野地域協議体「なんずかんずつながる会」というのをされていますけれども、感じておられる実態について聞き取りを行っていきたい。高野交通、比和観光、口和タクシーとの意見交換なども行うように考えたらどうか。そのほかにも聞き取りをしなければならない課題が多くあるとは思いますが、この3本の柱を中心に調査を進めたらどうかということで、4人で打ち合わせをしました。今から本委員会で検討してもらおう中で、調査の具体的な内容や進め方について御協議ください。皆さんから何か。國利委員。

○國利知史委員 大体はいいと思いますが、地域に本当に求められるデマンド交通について調査するのであれば、庄原Ma a S検討会が先進事例などもかなり研究されているので、まずそこに意見を聞くべきなのではないかと思います。かなり詳しくされているので。

○宇江田豊彦委員長 他にありませんか。坂本副議長。

○坂本義明副議長 西城紫水高校の生徒もちろんそうですが、西城やいろいろな所から来ている庄原実業高校や庄原格致高校へのJR通学も、ボリュームがふえるから大変かもしれませんけれども、参考にする必要があるのではないかと思うのと、中学生の場合は通学バスになっていますが、あれはいいのですか。それと、自分でも動いてみているのですが、生活交通で、今、口和から庄原に来ているバスがあるではないですか。ああいうバスの利用状況も調査したほうがいいのではないかと思います。それはボリュームが多くてまずいということなら、私は委員外議員なので、私が実際に動いてもいい。それから、タクシーの件ですけれども、りぼんタクシーのオーナーと話をしたのですが、とにかく赤字なのだ。ほかから補填しているから何とかやっつけているが、赤字なのだという話をされていて、数字を全部出してもいいから協力するという話は聞いています。参考までに。

○宇江田豊彦委員長 徳永委員。

○徳永泰臣委員 この中に西城が入っていないので、どこに入るかはわかりませんが、西城交通の考えも聞かせてもらいたいなと思います。

○宇江田豊彦委員長 そのほかにもありませんか。國利委員。

○國利知史委員 特別委員会なのでどうなのかわかりませんが、地域交通課とは一切かわりなく進めていくのか、それとも、担当課も交えての委員会になるのか、その辺はどうなのですか。

○宇江田豊彦委員長 今のところ考えておりませんが、必要があれば招聘もあり得るかと思います。他にありませんか。五島委員。

- 五島誠委員 JRのことですけれども、JRでの通学の方に特化して調査したらどうかという格好になっているのですが、何か調査をした後の動きをどうするのか考えたときに、その後どのようにイメージしていけばいいのかなど。今、こういう形でグループ分けをされていますけれども、当然、生徒の方に話を聞いたりすることは必要だと思いますが、先ほど、西城はどうか、東城はどうかという話もあったので、あっさり地域別でグループ分けしたほうが動きやすいのかなと思いました。
- 宇江田豊彦委員長 他にありませんか。JRの場合、今後どのように生かしていくかはかなり難しい課題があると思います。市民の皆さん、学生の皆さんがどのように感じておられるのか調査した結果を庄原市議会としてどのように活用していくかということであれば、かなり難しい要素があるのではないかと思います。ただ、JR芸備線を一番活用しておられるのは間違いなく高校生ですから、一番活用されている方から御意見を伺うのは非常に大切なことだと思います。ここには、市内の高校に通うことだけをわざと書いていますが、出て行く人たちもおられます。JRを活用して三次青陵高校や三次高校に通学している方も相当な人数おられます。そこまで入れると調査が大変困難なのでこういう書き方をさせてもらっていますが、地域ごとに分けるのがいいのか、それとも、部門別に分けるほうが調査をしやすいかは一考しなければならないと思います。皆さん、その辺についてはどのようにお考えですか。御意見があれば伺います。谷口委員。
- 谷口隆明委員 JRの問題でいえば、今言われたように利用者が、朝7時半ごろに、出て行く子供が50人くらいいて、降りてくる子供が50人くらいいます。三日市でおられる子供がかなりいます。100何人が毎朝あそこで乗り降りしているので、本当に高校にとってなくてはならない状況になっています。そうした実態をつかんでいくことが大事だと思うので、地域別よりもテーマ別のほうが、調査がしやすいのではないかと思います。御提案のように進めたほうがいい気がします。
- 宇江田豊彦委員長 他にありませんか。委員長が強引にまとめてはいけないのですが、まずはテーマごとに取り組みを進めてみて、地域ごとに進めたほうがもっと深い調査ができるのではないかということになれば、そこでまた組み替えてもいいのではないかと思います。

2 調査項目別のグループ編成について

- 宇江田豊彦委員長 期間がないので、グループ分けをして調査を実施したいと思います。それに御異議ありませんか。
- 〔「ありません」と呼ぶ者あり〕
- 宇江田豊彦委員長 そこで、皆さんにお諮りしておきたいことがあります。実は、本特別委員会には、毎回、議長、それから、委員外議員として副議長に参加してもらえることになっています。6人では非常に人数が少ないので、委員長としては、委員外議員も含めて班構成をさせてもらえればと考えています。それについては御異議ありませんか。
- 〔「なし」と呼ぶ者あり〕
- 宇江田豊彦委員長 委員外議員の方もそれでよろしいですか。
- 〔「はい」との声あり〕
- 宇江田豊彦委員長 もちろん議長もいいですね。それではまず、希望をとります。前田副委員長。
- 前田智永副委員長 事前協議として4名で少し話をしながら、先ほど御意見をもらいましたが、部門

別に分ける中で、地域性が非常に影響しているだろうということで、主に地域の割り振りというか、近い方を勘案しながらグループ分けをしてみたので、案として聞いてもらって、御意見をください。

1番のJR芸備線が徳永委員、國利委員、宇江田委員長の3名、2番のタクシーが谷口委員、坂本副議長、林議長の3名、3番のデマンド交通が五島委員、前田の2名ということで分けてみました。皆さん、御議論ください。

○宇江田豊彦委員長　　今、前田副委員長から提案がありました。先ほど提案された3つの班分けでいいかどうか、皆さんの御意見をください。私はむしろこちらのほうがいいというのがあれば、よろしいですか。このメンバーで確定します。このメンバーで打ち合わせをしながら、もっと深まった、どういう形の調査がいいか御議論ください。

3 今後の日程について

○宇江田豊彦委員長　　次の協議事項に入ります。今後の日程について、大まかに、いつの時点で仕上げるか。要するに、本特別委員会の報告を9月に行うことはあり得ないので、12月に行うのか、来年3月に行うのかを決めておきます。そうしないと全体的なタイムスケジュールができないので。どうですか、皆さん。五島委員。

○五島誠委員　　3月に設定してしまうと、調査の段階で変わったりすることもあると思うので、12月に設定するほうがいいかと思います。

○宇江田豊彦委員長　　他にありませんか。國利委員。

○國利知史委員　　目的が地域公共交通計画の見直しに対するものだと思いますが、いつごろに見直しの検討が始まるのですか。その前にしておいたほうがいいかと思います。

○宇江田豊彦委員長　　新年度にならないと具体的にはスタートしないと思います。國利委員。

○國利知史委員　　来年度になってから動くのであれば、五島委員が言われたように、12月ごろまでなのかと思います。

○宇江田豊彦委員長　　他にありませんか。本特別委員会は12月定例会をめぐりに調査を進めていくことになります。ですから、おおむね11月には終了しなければなりません。11月までを調査期間とし、12月を本会議での報告とする日程の取り扱いで進めることにします。よろしいですね。おおむねそういう形で進めていきます。それから、本日議論してもらった意見も踏まえて次回開催を考えたおかなければなりません。次の日程をいかがいたしますか。五島委員。

○五島誠委員　　次回何をするかというのがあるので、次回までに各グループで何をおこなうべきかを御教示ください。

○宇江田豊彦委員長　　林議長。

○林高正議長　　私の希望とすれば、今、グループを挙げさせてもらいましたが、できれば、そのグループの2名ないし3名で、どういう形でいけばいいのかを決めてもらいたいです。ですから、随時、報告等でこうして集まりますが、活動自体はそのグループである方がいいのではないかと、そういう提案をさせてもらいました。きょうの委員会が終わってから話し合いをされてもいいですし、どこに行っても話をしようという話をされてもいいです。なにせ期間が短いので、その辺は皆さん

でフレキシブルにされたらいいのではないかと思います。

- 宇江田豊彦委員長　議長はそういう思いで本特別委員会を提案されています。
- 國利知史委員　そうすると、班ごとに何をするかを早急に話し合ったほうがいいと思うので、本会議最終日の6月28日までに各ブロックで内容を決めて、6月28日の本会議終了後に3回目として集まれば、どのみち市役所に来るのでいいのではないかと思います、いかがですか。
- 宇江田豊彦委員長　五島委員。
- 五島誠委員　話し合える余裕がないのですみません、金曜日は無理です。
- 宇江田豊彦委員長　他にありませんか。6月28日は難しいということで、どうしますか。できれば、きょうの委員会終了後に各グループで討議をしてもらいたいと思います。今、それを経ての、次の委員会の日程を考えているところです。國利委員から、6月28日の本会議終了後という話がありましたが、五島委員から難しいという話がありました。次の委員会の日程を決定すれば逆算して打ち合わせができると思うので、先に決定します。五島委員。
- 五島誠委員　個人的な都合ばかりで申し訳ないのですが、来週であれば7月5日以外ならいつでも出席できます。
- 宇江田豊彦委員長　7月1日はどうですか。
- 五島誠委員　先ほど、金曜日はだめだと言いましたが、金曜日の午前中なら大丈夫です。
- 宇江田豊彦委員長　変則的ではありますが、次の委員会は、7月4日、金曜日、9時30分ということで、それまでに班での打ち合わせをお願いいたします。皆さんから何かありますか。では、きょうの特別委員会を閉じます。

午後1時35分　散　会

庄原市議会委員会条例第30条の規定により、ここに署名する。

地域生活交通に係る調査特別委員会

委員長